

コンテナの秘密

青橋の海

仕ぐみ細か

私たちは、夏休みには、横浜港を船でめぐり、横浜の港の現状について調査しました。

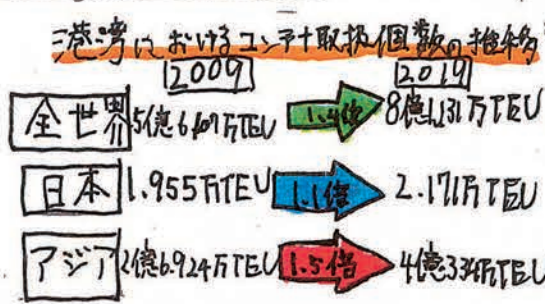
横浜港にはたくさん荷物を取扱っています。二〇一九年の貿易額は一兆九千九百億円、また、貨物取扱量は、一億二千万トンで、こちらも全国一位となりました。

根岸、本牧の臨海部には大規模な倉庫があり、運搬業者さんのおかげで、こなわれています。

そこで、一番印象に残ったのは、コンテナ船の形にユニット化するのとび運ぶやすくなり、さまざまなおもちゃ、同時に運ぶことができます。海上輸送貨物のうち



令和五年九月四日発行
横浜市立老松中学校
『青橋の海』第一号
一年 小林 美登
一年 根原 煌
一年 峯俊 太一



海外への橋渡し

船頭とは、船が着き、貨物の荷揚げや、荷下ろしを行う場所のことです。横浜港には、船頭が主に二つあります。それが大黒船頭と本牧船頭です。この二つの船頭の近くには、橋下りのベイブリッジがあり、新港船頭、大黒船頭、山下船頭の3つのクルーズ船が対

コンテナ船の良し、より横浜港のコンテナ1回が大黒船頭運ばま点について2つ細かく貨物取扱個数は、27すか、運ぶのに数日9万TEU(コンテナ)はかかるため、急いで1回が大黒に運べるコンテナ貨物を取扱、そのはすくは運べないのひず。その場合は飛行機の出番です。このように、状況次第では運ぶ方が大きくなり、わってくるようひず。

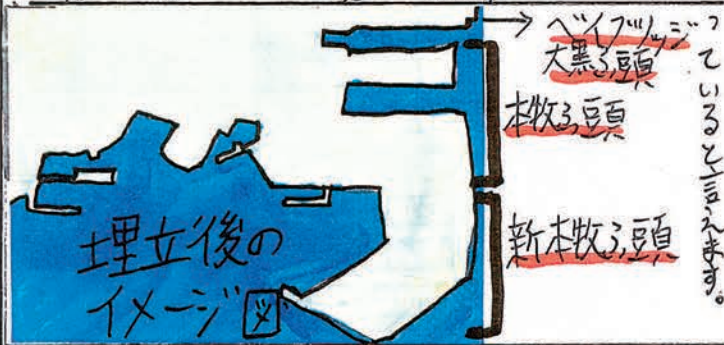
コンテナのサイズ

- 20フィート = 1TEU
- 40フィート(12m) = 2TEU

コンテナ船はコンテナを

対応していましたが、クルーズ船や入港機能強化のため大黒船頭には2隻、本牧船頭には1隻追加されるようになり、また、コンテナ船取扱機能強化により新本牧船頭と本牧船頭の建設が始まっています。令和3年頃に完成予定です。

僕は、横浜港の船頭渡しとしての役割を担



川崎の架け橋

物流の大きな力

川崎港には東扇島と二場所があります。そこには多くの企業や工場があり、輸送の拠点となることろがあります。ですから東扇島には他の地区と違って橋が一つしかありません。災害が起きた場合に渋滞が起きるかもしれません。新しい橋の計画がはじまりました。

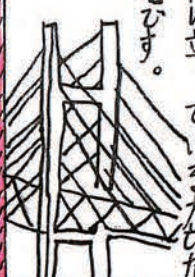
橋を作るには、問題があり、近くに空港があること、たりの、大きな船舶が通ること、かあるため、高さや幅など条件の範囲以内

橋を作るには、問題があり、近くに空港があること、たりの、大きな船舶が通ること、かあるため、高さや幅など条件の範囲以内

横浜のシンボル

横浜港にある、横浜は首都圏環状道路の下層ベイブリッジは、全長は、国道沿線とな、80mでタワー2本の間をおり、港湾物流の一端を担う重要な役割を担っています。

は海面上55m、タワーの高さは172mという巨大な橋です。国際航路を確保するためにあります。橋の下にはスカイウオークという場所がある一部を構成する上層部分があります。



東扇島の役割

東扇島は、島全体が川崎港にな、ており、埠頭は東京湾側の外航船埠頭と、京浜運河側の内航船埠頭に分けられます。その立地条件から物流、食品関係の倉庫が集中しており、食品では神奈川県50%の貯蔵能力を持ち、物流関係の戦略拠点となっています。

首都圏環状道路と東扇島出入口が設けられ、東京都内や横浜市の陸上トラックの要となる大きな力になることを期待されています。



△川崎港の概要と東扇島水江町線計画区間

東扇島水江町線の完成図



編集後記

僕たちは、この講習会で横浜の海を学ぶ機会がありました。講習会が学んだことを新聞にしました。この活動を通してこれまび知らなかつたことを学ぶいい機会になったと思います。

二〇二三年 初秋



橋梁ハンマーヘッドトールブリッジは一九四四年は50トンです。今年おと水江町を結ぶ橋を（大正3年）に横浜港、10年を迎える関東大震災時には、多くの建物が崩れていた中、ハンマーヘッドは壊れ残った。それを修復する。それは、大きな建造物であるといえます。